

2020/11/22

(改訂版 涙のネパール国旗)



台風や強風、雨風(あめかぜ)に晒され、二年半の間にお店の前の、カーリー屋の御徴(おしるし)であるネパール国旗がほつれて、ボロボロになってしまいました。

定休日の早朝、一人で前日の売上整理をしながらそれを見ていたら、なぜか涙が出てきました。

道半ばで倒れるかもしれないと思うと、涙が止まらなくなりました。

「爺さんだって、泣くこと、あるんだもおろ、ん」

誰もいないのに、自分に向かって、そうおどけて見せるのが、その時自分ができる精いっぱいの矜持でした。

「泣くことだって、あるんやでえ。分かった？分かっていんの？」

後でそう付け加えたのは、誰かに聞いてほしかったからでした。

ボロボロのネパール国旗が、突然吹き出だした風に引っ張られてパタパタパツパと音を立て、その半濁音が自分には「アハハのハツハ」と笑っているように聞こえました。

「笑わんといて、マジなんやから」

ふざけるしかありませんでした。

(完)